

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策

- ① キャリア教育の視点に立った指導内容表の作成では、専門コースの指導内容表が作成できたので、今後は共通教科について取り組む予定である。

日々の授業の充実については、授業研修会を実施し、県特別支援教育課及び県総合教育センターの先生方からいろいろな指導・助言をいただくことができ、授業改善の良い機会とすることができた。2月に3年間の実践をまとめた研究発表会を行い、多くの方から意見・助言をいただき、今後の実践の参考となった。来年度は、本年度までの成果をもとに、校内授業研究を行ったり、他校の先生への公開授業を実施したりするとともに、職員研修をさらに充実させ、授業の改善・充実を図る。

学校生活の充実については、第1回卒業式を挙行し、引き締まった雰囲気の中にも温かみのある式で卒業生を送り出すことができた。清掃ボランティアや募金活動などの生徒会活動が評価され、児島警察署から善行表彰を受けることができた。また、学校保健委員会や保健指導などの取り組みにより、学校保健推進学校表彰を受けることもできた。来年度は、学校祭や体育行事の実施方法、修学旅行や卒業研修の行き先などについて検討する。

就労支援の充実については、就職希望の生徒は全員就職することができた。生徒一人一人の進路保障の取り組みには、保護者・教職員とも高い評価をした。移行支援会議を計画的に実施したり、アフターケアの一環としての同窓会組織を立ち上げたりした。来年度以降は、関係機関と連携したアフターケアを実施し、具体的なケアのあり方を検討する。

- ② アピールについては、ホームページをより分かりやすいようにリニューアルした。また、校長だより、学校公開、研究発表会、ボランティア活動、産業教育フェア、中学校訪問などを通じて情報発信を行ったため、保護者・教職員ともに、高いプラス評価であった。現場授業の協力企業が6社(昨年度4社)に増えたり、来校企業も延べ50社以上にのぼり、企業における本校の知名度も上がっている。来年度は、特別活動や課外活動等に地域住民の方をボランティアとして招き、生徒との交流を図りたい。また、本校教育の理解推進のため、通学区域にある中学校訪問を引き続き実施する。

2 学校関係者評価委員名

重松 孝治（川崎医療福祉大学 講師）
大島美栄子（倉敷障がい者就業・生活支援センター 所長）
片沼 靖一（琴東地区社会教育コミュニティ推進協議会 会長）
森本 潔（児島市民交流センター 副センター長）
矢野 幸男（児島ハローワーク 統括職業指導官）
松村あずさ（本校 PTA 会長）

3 学校関係者評価

- 教員の専門性を図るための研修が必要だということが課題になっているが、専門性を特別支援教育に関するものか、専門教科に関するものかというように具体的に検討する必要がある。また、集団指導により個が伸びることが多いので、授業研究を通して集団指導と個別指導のあり方を検討する必要もある。研修会で得た知識を自分のものにするには、授業研究を充実させることが有効である。
- 離職の原因を人間関係の問題で説明するケースが多いが、具体的な出来事を聞くと人間関係以外のところに原因がある場合もかなりある。仕事量ややり方に原因があることもある。
- 保健室利用や欠席が多いことから、身体面だけではなく、メンタル面のケアも注意して欲しい。
- 中途退学を防ぐ方法として、本校への入学希望が本人のものか、保護者のものかを確認する必要がある。
- いろんな機関との連携を手探りで言いながら、アフターケアは進めていかないといけない。
- 一般の高校生に比べ、マナーが良いので、さらに地域に出る機会を増やして欲しい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ・ 全教員が、最低 1 回は指導案を書いて授業研究を行うことで、授業の改善・充実を図る。
- ・ 関係機関や地域と連携した職業教育の充実を図るとともにアフターケアのあり方を検討する。